



HIV感染血友病患者の リハビリテーション

山本克彦[†]

IRYO Vol. 77 No. 6 (439-444) 2023

【キーワード】血友病, HIV, 薬害エイズ, 関節内出血

はじめに

国立国際医療研究センター（NCGM）リハビリテーション科では、非加熱血液凝固因子血液製剤によるHIV感染血友病患者のリハビリテーションの研究および支援を進めてきた。

我が国におけるHIV感染症に関連する社会的背景として、1980年代前半、当時の厚生省が承認した輸入非加熱血液製剤にHIVが混入したものが含まれていた。これを治療に使用した血友病患者の約3割/1,400人がHIVに感染した薬害エイズ事件が大きな社会問題となり訴訟に至った（表1）。その後1996年の和解成立を受けて、薬害被害者救済の一環として1997年に国立国際医療センター（現NCGM）内にACC（AIDS Clinical Center）が設置された。ACCとは、外来・病棟・治療開発室・医療情報室の4部門からなり、国内外のHIV感染症治療・研究機関と連携のもと、HIV感染症に対する高度かつ最先端の医療提供とともに、新たな診断および治療開発のための臨床研究・基礎研究を行ってきており、AIDS全体を取り扱っている。また、日本のHIV医療体制はACCと地方8ブロックに整備された「ブロック拠点病院」および全国にある「拠点病院」と、

その中で各都道府県を代表する「中核拠点病院」に整備され、診療ネットワークを築いている¹⁾（図1）。

薬害症例に対しては、2011年にACC内に救済医療室が発足し、薬害HIV患者のみを対象とした血友病包括外来が開設され、血友病治療班（ACC/整形外科/リハビリテーション科）、肝治療班（ACC/血液内科/消化器科）のチーム医療として包括的な診療・ケアの提供を目指している¹⁾。

HIV感染患者を取り巻く問題点

我が国におけるHIV感染者に対する社会的問題：「感染源＝加害者」とみなす状況を背景に、血友病患者や家族に対する暴力や差別が生活環境や医療現場において、また支援団体^{*1}に対しても現実に行われてきた経緯がある（表2）。

一方、加えて薬害HIV感染症患者においては、血友病という遺伝性疾患自体の問題、HIV感染症の問題、また血液製剤により同時に感染した肝炎-肝硬変-肝がんの問題、さらには薬害による医療不信といった問題を抱えている。HIV感染症による予後は改善しているとはいえ、肝炎治療を含め治療薬の長期投与や内科的管理の必要性、関節内出血など運動

国立国際医療研究センター リハビリテーション科 [†]理学療法士
 著者連絡先：山本克彦 国立国際医療研究センター病院 リハビリテーション科
 〒162-8655 東京都新宿区戸山1-21-1
 e-mail : kayamamoto@hosp.ncgm.go.jp
 (2023年9月21日受付 2023年12月15日受理)
 Rehabilitation for HIV-infected Hemophilia Patients
 Katsuhiko Yamamoto
 Dept. of Rehabilitation, National Center for Global Health and Medicine
 (Received Sep. 21, 2023, Accepted Dec. 15, 2023)
 Key Words : hemophilia, HIV, AIDS caused by transfusions of HIV-tainted blood products, joint hemorrhage